

陳情第 9 7 号		受理年月日	令和 8 年 5 月 1 3 日
付託委員会		保健福祉子ども委員会	
件名	ひきこもりに対する実態調査と支援策の策定に関する陳情について		
要 旨 国は、令和 5 年にひきこもる人が国内に約146万人いるとの推計を公表した。この数は年々増加の一途をたどっている。 現在、ひきこもりは50人に 1 人になっており、本市の人口から比較すると18,000人いると考えられ、年々ひきこもりの増加が予測される。 しかも、ひきこもりの状態は家庭外からの目が届きにくく、その状態となった背景や生活、考え方などが周囲に理解されづらいため、ときに偏見や誤解を受けてしまうことがある。その結果、ひきこもりの状態にある人に、周囲の理解が得られないという意識が生まれれば、周りに助けを求めたくても声を上げられず、孤立を深めることにつながる。 さらに、本市においてはひきこもり、不登校など、生きづらさを感じている方への幼少時、義務教育時、その後まで、切れ目なく一貫して伴走的支援をする仕組みがない。そのため、親はその都度一から子供の状況を理解してくれる人を探し、説明し、子供に合った支援体制をつくる必要があり、その苦労は計り知れないものがある。 東京都江戸川区では、令和元年から 3 年度、5 年度、6 年度と合計 4 回、ひきこもりの実態調査を行っている。その調査方法は、インターネットや書面での調査だけではなく、専門職員を配置し、未回答のご家庭に訪問調査を行うことで、推計に近い当事者数を掌握するとともに、より詳細な実態の調査結果につながっている。さらに、調査を進める中、個別相談につながったケースも多々あるとのことである。 本市においても、ひきこもりの状態にある人やその家族等の実態を把握し、必要なサポートを行う足がかりとするため、江戸川区のひきこもり支援施策を参考に、詳細な実態調査を行うとともに、一人一人に応じた支援策の策定を切にお願いして陳情する。			